古今和歌六帖標注

一

特別
イ4
3163
97(1)

貴
14
3163
97(1)

古今和歌六帖標注

契沖阿闍梨校本
賀茂真淵翁校定
平田豆流大人校定
山本明清大人校注

東都書肆　青藜閣發兌

東京都立中央図書館蔵本六帖の原本
ゆゑ所のうつりよかは
おもひ出ぬ時なしとかは
いかゝ思ひ絶ゆ時なしとかは
ねはかれ　春の夕
はさくあきらの校圓の為

の用事山本の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おもてをぞふ等をもそうつれど万葉攻證をもぢめて仙くれと古書どもに註
さくよいとまあるれどいうもんおもを略よらくあさとやぢ紙びぬおのれ
もうまてようそのんぎしあつれがよろらびうみまりてやづくうれぬしそめ
校しもきれる抄物髓脳までもひろく考へまき本集ふれ仕本に
みえる彩のうぎうもひあつえかりひとりあるうもきびそのあるま
をとうやはとのふふふ考へ標註まるまなどつきびやひとうもふふ
めきたるもあふなるうう化此ふふふ万葉のうをとうれるまやや
多百八首そのうちまはまの万葉の訓あやまりて此ふふのうをうを
きもありまを万葉のをようをくて此書のうろきもあうふつもふなや
まれるぞ師箱に攻證の訓ふまをうびて校正せり

時代

袋草紙云六帖貫之女子所為也故号紀家六帖まを八雲御抄云六帖
貫之或云兼明親王又云六帖後中書王六條宮まを詞林採葉抄云六帖八貫之ガ女ノタメニ
集メタリ仍号紀家六帖まを和歌色葉集云宇治喜撰ガ式六條中書
王の六帖源順ガ樹下集云々かくのごとく作者一定あらぬ契沖云うつる人ふ
あ説あり紀ふうを紀貫之ガ女のをなどあるを紀氏六帖をいひ
ふをうを六條の中將ふをのいつのあさを紀るよりやされる先達も
あり後撰よりををるうをよみ順高遠重之などを名をいつをてうをあり
齋宮女御徽宣馬内侍恵慶法師などを名ぜあふさあるを西拾遺集
よりをる作者是あるべなけ是ふうを後まを古色を國融俊花山院
などの法師出来をるをやまを玄洞云古今六帖といあまを事ふ世よ紀氏六帖
といふうをれどもいかある人といふをもをを紀の撰えガ女の集などなど

いつちよりなん形ぞといそぐ古今集より此六帖と同しうたあまく入てるふ詞の
あとなるもかうこふ六帖のうたをとりてその時のあらまほしなれてもあげし
その形ること實平の時分彩撰和歌集は歌をこそぐを形ゑして古今集より
ときるたぐひありさて古々集出てうり後その集は詞をいうへぶりふへし
あるもむべきそのの人もきこえそ世のいきわひも志ありを無えのこころ
よりも女の心はふまきよくこんをいであるんかきび六帖ハ古々集よりさ和よ
ひつめ一まの形るよりけ一今此西説を案ずるよ古洞の説もこそりあまぐ
狂契沖のうそまきりたん集中をつら〳〵ゑるに書〳〵とありてよう人志びて
のうたまあぐ一人のうたまき百番の歌等ありその女してとが新の形を
かぎりいにやまるべそび書〳〵の姫の作よ行ざるる志ま一まる六條
宮の清作ありといふ説もうけがぐ一いうすといふよ志べてのきざ法をきあきふ

要 二

さうもいそび題をいやまるこすべ形うすべたえバ樋の影ふうすひ社
うたを入る狙の影よその日もとよある形をいきるるたぐひさうよ男るの
まよ出りふみそび江談抄巻四よ此六條宮の清事を志りて年々別
思驚秋鴈夜々幽聲到曉雞後中書王文藻此詩已後万人歎
伏こそ侍かる大才のきこいでらさる語りたぐ志ふへき源平盛衰記
巻七よ六帖抄トイフ双紙ヲソ被渡ケル彼抄ト申ハ村上帝ノ第八御子具平
親王家ノ御集ナリ此親王ヲバ六條宮トモ申後中書王トモ申中務親王
トモ申ケリ云々まこ本朝書籍目録ハ六帖貫之或兼明親王こそあるてまこ
私記六帖後中書王六條宮と別まるん西うまバ此古今六帖と中書王の六帖とかまり
別のものあるを名のあるのしきこそりてふこまぎれるなるべ一されバ契沖ど
拾遺六帖序ハ以所載作者粗推年代疑寛和以後才女之撰耶とい

それらをよくその実をはかりあやまりいふべからず

書名

此ふみを六帖とも名つけられたるもの契沖が説のごとく白氏六帖の名をとるなるべし唐書藝文志に白氏經史事類一名六帖卅卷とあるもこれや六帖といふ書名のはじめなるべき宋孔傳が後六帖を合せて百卷とせるを白孔六帖といふあるは義楚六帖八詩六帖補などおほくこれ宋以代のふみども形れば此六帖より後のものにまぎれ新撰六帖現存六帖等のうち書名まぎれ此ふみの名をとるべからざる六帖増韻に三両為六陰數也ともまた兼三才之數ともあれども帖を和名抄文書具ふ文字集畧云帖請物疏也とあるにみえて和名なり今俗に帖をとぢぶみといふもいさゝかたがへり説文に帖帛書署也とみえまた東帖拜帖禀帖などいふ名あり皆尺牘のまぎれひろて書冊なり

義もあるべし但通雅に帖經以試曰試帖乃揔括經文類聚之誦習以應帖試謂之帖括とあるも是今いふとぢぶみに甚ちがひ書籍いまの巻子あるもあるこれとおなじ形なり此書も元は巻子ありけんを歌のおさまりよからんあり一巻二巻を一帖二帖といひしなるべし本朝書籍目録に六甲六帖滋岳川人撰とあまた袋草紙九帖とあるこれ六甲六巻袋草紙九巻とよまるべし川人朝臣は貞觀十六年閏四月廿七日に卒去せられたるよし三代實録にみえたるにより六帖をはじめ白居易にあまりおくれたる人にあらず

部類

此のふみ部をたてること凡廿五類をまうけることすべて五百十六あり先つ部さまいと奥あり第一帖に歳時と天象あり四時に別にまたする所たゞ四時の初をもて次に天象をつゞけより第二第三に地儀と第四に

哀祝別とりて雜体を別よつ　ちきこ八人ありあれば天地人の三才球
もて次第をり此帖の哀祝をそりかざるのおもひありその事人のかをいでたな
まんといふ下の句よいるくのみるたをしひつるをるうこ三十九首あらか
玉皇本行集經ふ　設使江河水波浪能生蓮慈烏毛能白如經故難遇
設使亀生毛堪採為衣服夜月能消氷如經故難遇
設使蚊蠓足堪構為舟橋能載一切重如經故難遇
設使黄口雀能銜諸太山擲之地方畏如經故難遇
設使一葉舟力能載崑崙浮渡於大海如經故難遇
などあるふ似てとをくゝ　巻五帖ふまる雜思ありちき　巻四帖のさふのおもひの
うをひくきてくをとくろるる似てり弱を哀をもくゝにされ万葉ふも
春雜歌秋雜歌などみくゝ相聞のかをくゝ雜歌にあはをすあるちを哀

なくゝ古今をり已下まくて哀の歌ふ者ありされど此をくゝも哀のうを
巻四巻五ふ　わくゝをるるや　巻六帖ハ茅出未多なり是を茅ま出
ふ出未ふ多をそのよをありてをの　秀句をくるやうよおれくり草

作者

集中作者まくて百九十三人ありうく山の花のるいへのおとくらまの花のたぐひ
その作者ふべくざるをいうまきんその代をおのく小伝をも出ふ　名れや不
せけ巻ハ者畧くたぐ公卿補任古今目録歌仙傳作者部類尊卑
分脈等ふくりていまくゝ父祖を書つく形論弁あるくぐひおのうれと
志げき試いとひてまくゝいたぐ此書作者のをるくざ為勅撰とをやう
かをりていとくゝぐうこたとぶ哀之とありて事此のうをありまくよくゝ人

考定のうへに作者四しきをのせたるたぐひなまあらされば初学の人はま
どふるふさゝうもいとゞやんごとなき人たちも歌あやまることすくなからぬ世
帖なゞのたゝへの條は八代女王とてきゝふよりたゝの志げきよといふ方歌を
のせたるみそぎするあゝの小河はとゝいふる歌をのせられたるを新古今巻五ノ八
代女王とて出されたるまゝ此ふたを勅撰の例よりこれる語へかゝる歌ち
なの不ゝよとゝ〳〵毎ゞおけりひきこゝてさらぬ〳〵

歌數

此書のうへをかゝんとゝるふまゞて四ノ四百七十一首ありてのうち歌九首
せんどう歌十七首ありまた此ふたゝまれて他の書ノ六帖とて出されたる歌
四十七首ありてこれ廿六帖の来ノ出たりてを合きて歌ノ数四ノ五百十八首と
但歌ノ重なれて二不ノ出たる百四十二首ノ不ノ出たる歌ノ三首ありて

うへゞもを除きて四〳〵ゝゞふまゞ四ノ三百七十三首ありて袋紙ノ四千
六百六十六首とみたるゝふいたゞく但清浦氏ノ本ノ不定と
といたれさまゞ考ノ歌数のさゞまゞざる〳〵なるゞ〳〵

別本異同

此書ノ古書を注する人まづ此本をもあ出て校合をもとめ手ノ人たのや
まれるを四〳〵ゝを補ふのうへきあれゞくさまゞ此ふたゝも良本四本を以
て校正せり集中桂と志るもたるゝ桂園家の本ありて実文の奥ノ
ありて此ノ本ノ流布本と似れゞ甚ノ異ノ不ありまた工と志るもたゝ
榎齋ぬ一の本ありて茅禄三年三月廿日僧民部卿清原宣早撰
若或説六條家又藤之女子等ノ源家長ノ奥書ありていとゝ
ノ考古實ノ二帖秋の野ノ新の野ノ十四ノ流布本

[illegible]を此本にておぎなひまゐらせ藏と書るは予が所藏の古写本なり
[illegible]極奇めの本と大同小異なり中五帖あやのうゑ二巻と中六帖あのうゑ
[illegible]補へうまさイと書るは今ひとつの写
本なり[illegible]流布本と大同じされどよき和さうの[illegible]

校正書目

此書紀万葉をはじめてあまたの書を校正りその書名を正しく書る
さんもいとこまやかにきはめざなれば[illegible]一二字をうるのうたに書きり
その標目左のごとし

古事記 記
古今集 古
詞花集 詞
日本書紀 紀
後撰集 後
金葉集 金
類聚國史 史
拾遺集 拾
新古今集 新古
萬葉集 万
後拾遺集 後拾
新勅撰集 勅

續後撰集 續後
續後拾遺集 續後拾
新後拾遺集 新後拾
寛平菊合 菊
亭子院歌合 亭
三十六人集
圓融院扇合 扇
惠慶法師集
三十六人撰 卅
大鏡 鏡
著聞集 著
續古今集 續古
風雅集 風
新續古今集 新續古
寛平后宮歌合 寛
日本紀竟宴和歌 竟宴
三十六人集補遺 古本
伊勢物語 伊
雲葉集 雲
朗詠集 朗
後葉集 後葉
河海抄 河
玉葉集 玉
新千載集 新千
神樂歌 神
新撰万葉集 新万
新撰和歌集 新撰
元良親王集
大和物語 大
金玉集 金玉
新撰朗詠集 新朗
萬代集 代
哢花抄 哢
續千載集 續千
新拾遺集 新拾
催馬樂歌 催
大江千里句題和歌 句
土佐日記 土
朱雀院女郎花合 朱
近江御息所歌合 近
和歌九品 品
後六々撰 後六
寶物集 宝
拾玖抄 玖

和歌夫木抄 夫　能因歌枕 枕　童蒙抄 童　綺語抄 綺
俊頼口傳 口　奥義抄 奥　袋草紙 袋　初學抄 初
和歌一字抄 字　袖中抄 袖　八雲御抄 八　古來風体抄 体
秀歌大体 秀　桐火桶 桐　色葉和難抄 和　和歌色葉抄 色

右のうち万葉集を万とのゝ考るて作者を出さるゝ作者不知のうゝ和ゝ
代歌枕名寄松葉集等までもひろく校正せりさて廿六人集も人丸集
貫之集とやうにまゝ書名を考るれば あゝるを およそ およそ集中出
所未詳の歌まゝ八百三十五首ありそのうちゝ いうゝぞや打ゝ ぶゝるも
和ほうれど異本のかゝ校正せゝ書もあけまゝいうまんそを志ひて海ぞんハ
あゝるゝ古書をそゝまゝ ひやまもあるべれいそひず後の人よく考へて
そもゝ和の是此ゝをかゝあゝを師よおゝをうけたまゝゝ十年ばかり

さゝ和ありきそれうゝよゝうゝ日ゝゝすり月ゝみみぎきいそで底あき玉ゝあさざゝ巳
ぬぞ玉ゝよゝるひゝそあゝ玉ゝのふゝるのふゝるゝ あゝふゝたゝうゝるゝさゝぶゝも
動の水琴のひきもおゝゝ彩ゝ和ゝ和ゝもゝゝるなゝ玉箒 行ゝれゝとゝのゝ侍ゝ
つゝ玉ゝゝげゝゝゝゝゝゝゝゝゝ侍ゝゝゝゝゝ世ゝゝゝゝ
あゝん人ゝゝゝゝゝ蓮石ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

古今和歌六帖題目録

第一帖

歳時部

春

春立日　むつき　法いそのの日　乃こりの雪
初の日　わゝの初　あをとうま　なゝの乃春
やよひ　三日　春おもて

夏

卯　夏　更衣　卯月　うの花
神まつり　五月　五月雨　ほたるの
水無月　なごしのはらへ　夏のそて

秋

秋立日　初秋
葉月　十五夜
九日　秋のよる

冬

初冬　神無月
志ぐれ　佛名

天

天の川　てる日
秋の月　冬ゝ月
夕つゝ夜　冬の月

七夕　新
彦ひき　なゝの月

夢月　かくら
うるふ月　ゆきぶれ

夏ゝ月　夏の月
雜の月　三日月
夕やゝ　ほゝ

春の風　夏ゝ風
山おろし　あゝし
村雨　時雨
霧　志ぐゝ
霜　雪
煙　ちり
かげろふ

第二帖

山

やま　山どり
くゝ　くま

秋の風　冬の風
ざふの風　ひの風
ゆふぎり　雲
このゝみ　きゝす
あゝれ　ちぼり
なる神　いなづま

さる　麻
ゆさゝび　山川

山田　山ざと
いとほ　峯
ちの〳〵え　きみがま
ぜの　そり
はうひ　うまや

田

春の田　夏の田
かりほ　いなあわせる

野

春野　夏の野
ざふの野　かや

山の井　山びこ
たふ　おそま
せき　系
やしろ　みち

秋の田　冬の田
そほづ

秋の野　冬の野
そま

大廈　小廈
うづ〳〵　大たりがり
みゐき　そと〳〵
ふたりがり　壁べ

都

こやこ　都どり
もゝ紀

田舍

園　邪　里
やど　やどゝ　ゐな々
このきゝ

家

いへ　とあや　井
屋　ふたとり　かど　まづき

きぶね　とこ
人
おきな　おんな
てらいこ　くるま
仏事
寺　鐘
第三帖
水 工本
ふる
ふほ　うな
ふひ　ふな

ほ　ふる
たや　うま
う　ほ
ほ　あま

ほ　かも
こうふん　いと
すぎ　たひ

契沖云ちくり本文ハ浪子多キヿ恨リ

あも　ひを
ほ　ひ
おほの　網代
いけ　ぬま
ふる　うた
ほ　ほ
ほ　きほ
いのり　なく
ふる　つま
おぎさ　ほ
浪ゆふ　さた

かく　このもと
ゐるさた　きぐ
やな　ふる
うき　たき
さく　ふち
あま　たくあく
ふね　つま
なく　藻
うら　かひ
浪　ふる
いそ　ふる

みをつくし　かた
てまを　こゑと

第四帖

戀

さいひ　うきさひ
うらぬ　浦の
おいぐろ　ざゝの夏
おもうげ　ゆゝ
うゝみ　うゝび

祝

いさひ　ときの
つる
かざし
別

ときわれ　ぬさ
たむけ
かるび　なゞ彦
ゆび
おふぐ奇
ふるさき彦

せゞうゝ

第五帖

雜思

さゝぬ人　いひさゞむ
ゆゝしさ
あり
さゝ人をおもふ
さゝひとをもふ
人さゝぬ　人はさゝる
ふさゝり　ふさり
ふさゝり
二枝へだてる　枝へだてる
さゝ屋へだてる
ものゝを　をゝてあひだ
ゆゝしさ
ゆゝひおもふ
あひおもふ
ゆゝひおもふぬ
ときて思ふ
いさゝでおもふ
枝ひとりを
あひ思ふ
あひ思ふ
一枝へだてる
ひゞ疎隔てる
さゝ屋へだてる
さゝ屋へだてる
よひのま
ゆゝしきある
人をまつ
人をまつ

人をよぶ
とする
おもひづ
ちぎる
ちこのふ
おもひやん
うぐまぐぞ
とぎもこ
ん人よ

服飾

ぎょうげ

道のたより
とをみぐ
むらもとふ
人をたづぬ
にのるむ
思ひとづふ
義をまも
わがきん
かみ

ぎょうづ

ふたづぐ
ひとそる
ぬまもある人
めづら
人ばま
えどのいぞ
をまぐ
かくまづ
ふるまもひ

かく

ひとづく
ぬぐ紙のう
ひつらふ
ゑみもる
ぎょうづを道ふ
人をとぐむる采
なきふ
今ふひふ

わもひ

そく
かぐみ
ぎん
衣ぬり
ぬぐもの
裳
さのと
ゆく
さや
くの

色

たま
まくら
塩やき衣
かぎ衣
ぬまぎぬ
ひそ
ふみ
や
さうく

ぎょうもと
ぬまくら
ぎょうもと
すぎ衣
ざふの衣
わび
ぎん
ぎょうもち
あふぎ
はや

ぎょうもと
ぬまくら
あき衣
ぎょうもと
ふぎま
ひとり
ふえ
ぎょうもと
かさ

いろ　　くれなる
みどり　　むらさき

錦綾

ふしき　　あや
ぬの　　いと

第六帖

草

春の草　　夏の草　　秋の草　　冬の草
ちくさ　　ふくさ　　ざふの草　　やまぶし
なでしこ　　撫子　　をみなへし　　さゝき
ちのきた　　をだ　　ちらし　　きく

きちかう　　くさのう　　ちくさ　　あさ
くさん　　さうび　　かるかや　　ゆ
さちき　　うきつぎ　　ぬ　　ゆ
あし　　ひし　　ぬまあや　　ゆ
あさぢ　　うきぐさ　　はぎ　　ゆ
ちのぶ草　　ちとせ草　　せり　　ゆ
たで　　むぐら　　ゆ　　ゆ
さまうづら　　あをづら　　あさぢ　　ゆ
はぎ　　ゆふび　　ゆのぢさる　　ゆ
ちくさ　　おとぎ　　ささく　　ゆ
ゆ里　　あるる　　ゆ　　ゆ

山さくら花　きげ
うぐいす　こゑ
いちご　赤ぐ

虫

むし　せゝ
まつむし　すゞむし
きりぎりす　くも

木

木　赤もも
石蕚　たゝそ
松　かへ

さゝ　あふひ
よもぎ　赤けし

夏むし　きりぎり
ひぐらし　ろぐる
てふ

さな　あきの花
まゆゝ　かへぐ
たけ　たうんふ

契沖云ハさくら本文ハくまざくらトあり文字ヲ誤レリ又山桜の下ひざくらの上ホ庭ざくらもちろう

うめ　きぐい
ふはさくら　花ざくら
ふぢ　たち花
ざくろ　なし
すゝき　かゝそ
むそ　また
あふち　か
かしは　ほぐぶ
岩つゞ　ひさだ
赤きゝ　あせゝ
かぐら　つまゝ

柿

山さくら　さくら
あへぐち花　ひざくら
山ぶし　赤ひ
くるゝ　もゝ
かづら　きぎ
くぬぎ　がふゝ
おぐあぐふ　つぐき
くゝ　けゝど
山ぢさ　きつまり
さねた　ゆづる

鳥

うぐひす　さゝなきちどり
ほとゝぎす　かはせ
ちどり　よぶこどり
さぎ　さゝこどり
もず　ちひさ

ひばり　かひ
うぐひす　ゝぐひす
ほとゝぎす　このゝさ
ちどり　かさゝぎ
つばくらめ

古今和歌六帖第一

歳時

春立日　親月　元日　残雪
子日　若菜　白馬　仲春
弥生　三日　暮春
初夏　更衣　卯月　卯花
神祭　早苗月　五日　菖蒲
皆盡月　祓　夏盡
秋立日　早秋　織女
葉月　十五夜　駒牽
九日　炼盡　後朝　長月

初冬　神無月　霜月　神樂
志波須　佛名　潤月　歳暮

天

漢渚　照日　春月　夏月
秋月　冬月　雜月　三日月
夕月夜　有明　夕暗　星
春風　夏風　秋風　冬風
山下　嵐　雜風　雨
白雨　寒雨　夕多千　雲
露　志津久　霞　霧
霜　雪　霰　氷

火　煙　塵　雷
電　景呂不　鳴

後撰雜一　躬恒

ひるあれやこぞもぐつる月うげを
けふこやいそんきのふこやいそん

万葉十二
戀君吾哭涕白妙袖兼所漬為便毋
奈之

春立日

古春上　朗　後六

[illegible]

紀貫之　先祖未詳

同　新撰　朗

[illegible]

家　新朗

[illegible]

夫春一歳内立春

散位安綱男

拾春　家　朗　金玉サ

[illegible]

大和

古春上　源當純　寛　新万　朗　金玉

[illegible]

たゝ　古寛　新　金

月

万八　玉春上　[illegible]　大和

[illegible]

夫春三柳　あくる夫

統前守棟梁男

大伴坂上郎女　佐保大納言安麿卿女

[illegible]

[illegible]

延喜神名帳云摂津國豊嶋郡垂水神社

袖中抄巻三云摂津と播磨とのさかひ

ふたつあるとかや　垂水と云岸とも

えもいはぬ名のみなるなかるゝとかや

垂水の明神〻神おはしますあの石の上

におちられいとをぶなるゝとかや云

和名抄燈火類云説文云烽燧度布

邊有警則舉之

續紀元明紀云和銅五年正月壬辰

慶河内國高安烽始置高見烽及大

倭國春日烽以通平城也

和名抄衣服類云孫愼曰襁褓和名

岐小兒被也

廿四云万十八〻作者未詳〻れぬ〻〻

赤人と拾遠よみ人ひがごとぞ又赤人ハ

やまと氏にて山部と云山の名ハ別なる也

万八　新古春上　夫春三早蔵

いけのうへにさくらこのもとをうつしうゑてよめる　三万

人麿集

古春上　家

春きぬと人はいへども鶯のなかぬうぐひはあらじとぞ思ふ

同　よみ人しらず　新撰

このたびは雪のしたぶす大の野を出てはよろこぶうぐひすの声

大和　　後京言也　従五位下安繩男

同　新撰

はるやまにおくきとやなくうぐひすのなかぬ日もあるうなり

万十　新古春上　赤人集　古本人丸集

今さらに雪ふるとかはうぐひすのなくべき時ぞ来にけるかな　八万免赤新

夫春二鶯

鶯のみだれてなくるあハ山のまつきの中よりとをなすみ

袖線ヨカス

拾春　朗家　廿六家持の哥を誤り

うぐひすの来なくなつのあさ山のあらし　傳未詳

そぜいはは　良峯宗貞男

古今玄名序ハ誤也

山きのふもとをうゝ山岡ぞ云ゝ

〻〻万十の作者不知也平〻すべ

拾遠ハ赤人とあるよう赤人集ハ加へ

朗詠ハ人丸〻あるべくして人丸集ハ

入まぎれたるなるべし家持集ハ入

まぎれる誤也〻とふべし

拾遠家集をもちゐるゆゑ

べしもちハ俗ハ以前とふことあり

のちにてハうつのことなれば

万十　拾春赤人　朗人丸　廿家　古本人丸集　古本家持集

春霞たなびくかぎりうぐひすのこゑ

大和

つゝみき

拾雜賀　家　を拾家

きのふよりのちもとぶ百鳥の来ぬ日はなきふるさとの

雲家

雲賀　家　風賀

あるゝ〻〻のこゑもまつ〻〻のたちもとをるこゑ

風

源のたびゆき　秀義兼忠男

拾春　家　金玉

大和

〻〻をいつまでけふハ雪のたちふるこゑ

さ拾家金

のこりなき

雪

万十　新古春上　赤人集

梅がゝをあさけてうつろふ雪ぬ白ふるとあと雪ぞふる

雪　く

古春上

春たつ日の雪をもとめ雪をふまばかぎりもなきまでぞ

おもひやる〻〻人ぞ〻〻き

後撰戀一

よ〻〻〻〻

ちのそをるまきの山をうちへ

おもひやる〻〻人ぞ〻〻き

春ふるとこゝ　先祖赤廿

万葉四
安蘇々二破旦者雖知之加須我仁
默得不在者云云　笠朝臣金村

拾春　家
[illegible]

あこの人

万十　家
うちなびき春さりぬれば[illegible]

[illegible]

続古春上　家
[illegible]

大和

[illegible]

大納言旅人男

万八　後春上[illegible]　拾春　河御幸　大春二嘗
うちなびき[illegible]
[illegible]　後
貫之集
[illegible]

万十　風春上　定人集
[illegible]

子日

万廿　新古賀　[illegible]　夫春一
[illegible]

被云云子日實のもじめあるべき
[illegible]文德實録云天安元年春正月
乙丑云云昔者上月之中必有此事時
謂之子日態云云上月とあるハ
正月の事なり上正音通ずる例易繫
辭下疏云[illegible]今のごとく小松を
ひく[illegible]菅家文草云予亦嘗
聞于故老曰上陽子日野遊厭老其
事如何尚於根以摩歷習風霜之難
[illegible]也云云[illegible]
抄を[illegible]
[illegible]師の万葉攻證ゐいとんたらを
[illegible]

榮花物語殿上花見卷云子日ハ山
[illegible]

おぼつかなくハ袖のびを山まゆの
ひきたがへても[illegible]
続古今賀　恵慶法師
[illegible]
夫木雜八　崎
[illegible]

つゝゆき

家
[illegible]

[illegible]

新後拾慶賀　家
[illegible]

伊勢　伊勢守藤原継蔭女

[illegible]

家
[illegible]

つゝね

[illegible]

[illegible]

土　河標零
[illegible]

家
[illegible]

[illegible]

[illegible]

荆楚歳時記云正月七日為人日以七種菜為羹煮絲為人云云

大神宮儀式帳云正月七日新菜御羹作奉大神宮并荒祭宮供奉云云

家持

万葉十八

美之麻野兩可須美多奈比伎之可須我兩伎乃敷毛家布毛由伎波敷里都追

和名抄竹器類云四聲字苑云笭箵

漢語抄云 小籠也 賀太夫

人

万八 新古春上 新撰 家 朗サ 夫春上

あきたちはつねの菜つまんとあれ野にきのふもふりし雪はつゝ

あきたちはつ菜 万イ 新古 撰 朗サ

つゝみき

新古春上 家 金三 朗サ

あきてゝぬ人もまつべと春の野にかすみたちつゝ雪はつゝ

家 笭箵ヲカヌ

仁和のみてのしの歌 仁明帝皇事

古春上 新撰 新朗

思ひたつあまの船よ出てゝ春の野にかすみたちつゝ雪はつゝ

同 貫之 新撰

かすみたつ春の野に雪はつゝ

雪の袖 万イ

川ゝにあらふなのあれてもゝ人のわたるこゝろあり

万十 古本人麻集

つゝみき

家

ゆふ家つまむとれを人ゝぶ船ごとにあれてもゝ人のこゝろくれまん

家

赤人集 袖

ゆふ家つまんと春の野の袖をふる人はいとゝ

万十 くゝ人の袖 ゆ万

家持

万廿

あしたこうま

春の野のあさるもとゝ人を限りあり

とゝ万

なつのゝあさる

家

月 家イ

春の野にあさるもとゝ人をかぎりあり

春の野はいとゝ

新古春上 貫之 家

亭 ミ

春の心とゝ人をかぎりあり

春の野にあさるもとゝ人をかぎりあり

人

雪

拾春 家 朗サ

春の野にあさるもとゝ人をかぎりあり

春の野にあさるもとゝ人をかぎりあり

つゝみき

家 代春下 代サ

春の野にあさるもとゝ人をかぎりあり

春の野にあさるもとゝ人をかぎりあり

そせい

古春下 家

春の野にあさるもとゝ人をかぎりあり

祖也

應神紀云十九年冬十月戊戌朔吉野宮琦国樔人來朝之時献土毛云云

月令云孟春之月天子居青陽左个乘鸞路駕倉龍云云

文德實録云仁壽二年春二月甲戌幸豊樂院以覧青馬助陽氣也云云

あをうま 二月まるを尺ゆふ あり今

とゝ云 同書齊衡三年春正月辛未

帝御南殿觀青馬云云 以下

三月七日まるのうまを

にゝ云云

和歌一字抄 顕季卿

ひがしのゝ春のゆべよあくがれて

京中をゝうゝらんゆる

新撰字鏡云忙怕怠懈也肥々呂
伊勢物語云おろかなりけるもの
土佐日記云女房ら
上巳禊祓の事後漢の郭虞より起
宋書禮志ハ自魏以後但用三日不
以巳也とあり
漢武故傳云僊桃七顆大如鴨卵形
圓青色以呈王母王母以四顆與帝
尉帝曰欲植之母曰此桃三千年一
生實中夏地薄種之不生帝乃止
袖中抄巻三ハ三月三日曲水宴
盃をのふ
ふ
ハ
ハ
ハ

月令云孟夏之月天子始締

いせ

家 いづこまでまゝいぬゝんまをとゝろれゝ　おと家 ゝゝゝ

四月ハ[illegible]の神[illegible]月あれバやがて神[illegible]四月ハ[illegible]
あるべし奥我抄云神[illegible]とつ
おつきてさねハ[illegible]
きねとハ巫女をとり[illegible]又物を[illegible]
具もきとり[illegible]物のれバ[illegible]
拾遺神樂歌　つるぬき
[illegible]山のさ[illegible]
[illegible]

五十夾集で集時あ[illegible]
後夏　拾夏

[illegible]の花ハさ月を[illegible]集
[illegible]集
[illegible]雪と[illegible]根も[illegible]の花

そせいほう

拾夏

[illegible]の花を[illegible]八拾

つゝぬき

家

[illegible]の花[illegible]の藏

[illegible]十二

家

[illegible]

家

[illegible]

左馬允源擧男

五月

古憲二家

[illegible]

法[illegible]

和名抄塵土類云孫愼云泥土和氷也一云和名比知利古　古九千

能因歌枕云東宮[illegible]

古今雜下　[illegible]

[illegible]

[illegible]

頼基集云秋の[illegible]

[illegible]

[illegible]

夫夏二早苗[illegible]童袖

[illegible]袖

新勅夏

[illegible]

寛新万

[illegible]

王憲四古本集

[illegible]

泥ヲカヌ

[illegible]

[illegible]

後夏

[illegible]

[illegible]

新勅夏家

[illegible]

家

[illegible]

五月

拾夏延喜御製　新撰新朗

[illegible]菖蒲[illegible]新

荆楚歳時記云五月五日此日競渡

採雜藥

書紀推古紀云十九年夏五月藥猟於兔田野取雞鳴時集于藤原池上以會明乃往云云

万葉十七　家持

加吉都播多衣雨須里都氣麻須良雄乃服曽比檐須流月者伎雨家里

續紀聖武紀云天平十九年五月庚辰此日太上天皇詔曰昔者五日之節常用菖蒲為縵比來已停此事從今而後非菖蒲縵者勿入宮中

土佐日記

いつしかといぶせかりつるなかあめのいとしきときかなけてこもまきかな

古今戀三　よみ人しらず

見もくばぬるかきのはなれや
ほすあしたにあきぬべらなり

つゆき

夫夏　家

るはあくしぶあやめぬまこぞ
ねぬまこぞ
るもあぐ夫
たぐさとも結やのまゆ
るる菖蒲まくふりけぬ人はまどれ

あやめぐさ

貫之集

さきぐあるみもうてはやめくき袖きんひちてはやれ
ま集　そ子集　くさん集

同上

五月てふさつきあくる菖蒲まらべも根きく生ゆのけり

同上

あやめぐさ結あぐき命つけばこそなるとしまれば人のひくこめ

續古夏　貫之　童

ふるこのくれて生る五月のあやめ草あぐきなかまとなるてや人のひらん
ひらん古　童

みかり花

五月のあやめ草根音ヲカヌあらはれてあきぬべらなり

かくれぬれ下ゆあやめ根ごめひきてこる人こつ

夏之

家

菖蒲草袖おぐきれば深ふれふきにる去るぬべらなり
ミ家

寛　新万

あやめぐさ
ら寛
つ新
ゆん寛
ゆんで新
さ月あひめくんくるまごくくく

除

公事根源云六月大祓まさしくあり
家〻は脇をこゆるなるべし
六月の晦日のはらへのたくはるべくは
此うたをとなへてはらへやつくべし
神樂弓立歌
きくのはなのけさの神あげはあまくも
ふるをのいのちあるとこそきけ

拾賀　貫之集
六月のはらへのたくはるべくは
おもふめきのこのはせをよあれてもちきの夏ふなつ祓せん

伊勢

拾賀参議伊衡家
こゝろぢをつくしてはらへ
おもふことをぞいのるやわが代の神のまゝ

要く

夫夏三　家
山川のたくはるべくは
新古夏　家
みそぎする川のきよみは
たゞふぢのたくはるべくは
ふるを神はらへくらん
あぢきなくはらへ
あやまれる

拾夏　家
そこきよみ　拾
こゝろをつくしてはらへ
山城　古今六帖
こゝろをつくしてはらへ

水家
こののさやけきはらへ
家
神はきらん

家
神はたれうたのまん　古
いせ

契冲云此うたを新古今ハ八代女王とあり古今ハ八代女王とあるは誤なり
此のうたのたくはるべくは
万葉十一
王久世清河原身祓為齋命妹為

拾遺夏　長能
さみだれのたくはるべくは
ふるハ神のたくはるべくは

元真集
ちはやぶる萩の葉風のたくはるべくは
秋のさかりはいかにやあらん
文選張景陽雜詩云金風扇素節丹霞啓陰期云云李善注云西方為秋云云
新撰万葉下左詩云乘節黄葉西初

夫夏三
年あるとこそきかなげきふかめれどとこよ
万四　夫夏三
きくのはなのけさのはらへ
新古憲五
萩のはなのはらへ　山城
夫夏三
たつた川　大和　同雜六順
たつた川のはらへ

八代王女　傳未詳

大和
なにはの浦なる神川のみそぎ
夫雜六
ひさかたの天の川原のはらへ

朗家
神はきらんとこそきけ

夏のはらへ

家
神はたれうたのまん
家
神はたれうたのまん

夕立條重出
夕立の夏のはらへ
夫夏三
秋のさかりはいかにやあらん
同上
西へゆくこのはらへ

秋題筆白露斎錦色

古今秋下　　藤原ちおん

おもふ人をまちてはのくるるころあふ
ふしこそ秋のたづめありけれ

元輔集

[illegible]
西なる人や　あきをまつらん

古夏　新朗　古本集

夏と秋とはいかなる所にかはひぢかの
[illegible]

八古集

藤原敏行朝臣　富士麿呂男

秋くつる

同秋上　新万　新撰　家朗　世

秋はなほ[illegible]

つゆ

同秋上　家　新撰

この風のすゞしくもあるかな秋はたゞ
[illegible]

同上　新撰　傳

きのふこそ[illegible]

後秋上　後　新万　新朗

ふきぬる風の涼しくあるは秋立るとは
[illegible]

ふきぬる万

初秋

[illegible]

裁ヲカス

[illegible]

古秋上　新撰　古本集　家持集　第五重出

我せこが衣の[illegible]
[illegible]

夫秋　又雑十三里　夫雑

あづまぢの[illegible]

ぬ夫　ね夫　夫雑　美濃

順集　夫秋一　字

本枯の秋[illegible]

八集

[illegible]

ホ集夫　や字

[illegible]

おと集

[illegible]

七日の夜

風秋上　伊勢　伊勢集

[illegible]

人まつ

[illegible]

万十　雲秋上　赤人集

[illegible]

ふく集　隠万

[illegible]

あきかぜ集　きこる万

ふうやぶ

拾遺雑秋　　平兼盛

たちぬとのあるぬとうれもゆ[illegible]
[illegible]

拾遺三　[illegible]

[illegible]

人麿

万十　後秋上　拾秋人九　朗　家

[illegible]

八あくれ　万後家　と家

[illegible]

古本人丸集
天の川おもてさやまるよろ
とのまれふたゝび一おの〻」
万葉一
紫草能爾保敝類妹乎爾久苦有者
人嬬故爾吾戀目八方」
宇津保物語菊之宴
いざやたゞごとのはよりあん家
うちとゝひ移ひて紅葉の樹ハ
いろゝ〻あるゝ〻〻〻〻〻〻

色下
まもせんかゝるよあゝ
万十 後秋上
たまゝ〻移ぬ物〻〻〻
万十 奥
ゆのゝ〻ひ〻いろ〻〻
古秋上
天の川おもて葉を樹様つゝ
万十 王愛三
たゝ〻〻〻〻〻〻
万十五拾秋 袋
古本人丸集
〻〻〻〻〻〻

だ色
のゝもあれハ色
ひゝよゝ色
さぬ〻〻〻ハ方
あゝ〻〻ま後
を〻を方
け奥
夫雑七妻
ネエ
たゝ〻〻〻〻〻〻
ゆ袋
ん〻を拾古
も方

古秋上 寛 新方 家
新撰 卅 新朗
たゝ〻〻〻〻〻〻
万十
大方をこのゝふ〻〻れ

ゆ方
ち方
ぢ方
ち方

後撰秋上
あゝ〻〻ふたゝ〻〻〻〻
たゝ〻〻〻〻〻〻

開院
〻〻〻〻〻〻

烏云鵲者烏之屬故周礼總謂之烏
中略 秋七日首無故皆髡相傳以為
是日河鼓與織女會於漢東役烏鵲
為梁以渡故毛皆脫去ときゝたり
よどむ〻も〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
よめるゝ云〻されど朝恒集ホ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
とあるゝこれはそれはあぞとゝ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
集ホゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ
のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

後拾上 家 家持集

ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ

紀有朋男

ハ後家

そゝ八後 ふゝせ持

つゝゆき

ひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

万葉八　櫻井王
九月之其始鴈乃使爾毛念心者可聞來奴鴨

屋のつぼ　屋の玉章あるべきもの　蘇武が故事　そのるは漢書の本傳ふくろ

本朝文粹巻八紀納言詩序云八月十五夜者天至淨月至明之時也故古之玩月多在此宵云云
白氏文集ふ華陽觀中八月十五日夜招友翫月律詩あり唐土にて十五夜を賞するの始とするなり西

後秋上　吉水集
たなばたのうへる　あ　あ　てのに　毋　このよ　ぬ　ほ　さ　なん

八月

古秋上　寛　新万朗　家
ねぬ　ひ　く　ね　ひ　く　ある　待　玉　章　を　う　け　て　来　て　ん

きこ　古家
こもの里

万八　三原
あきの　つ　ぬ　ら　つ　ま　ぬ　ま　べ　ま　ま　ら　ま　ら　の　ま　の　ま　ま　ま

袋草子巻三云良暹於或所語云一日江州ヨリ上洛之間於會坂時雨逢テ石門ニ立入テカシコノヌレズトヌレ而懐圓問云関石門ニ何様ニ被立哉門待敦云々懐圓咲而其ハ石ノ廉ニテ待不知給敦不便ニ良暹閑口真淵云弱引のうゝ見ゆまきりたるこそあれ貫之のもよけれどもこのつきゆハーぐ公任々やゝ愛之のまきれりとひくゝ今少古言をおもはれざるべし

拾秋 金王 後六
あき板の実はつゝとうなるしゐ立いつるきりぎゝ弱

順集
たなのよせんかいてぎ玉つんを板の実あるく社弱もひきられ

或本
たゞふさ 藤原是嗣男

後秋下
秋の月の弱をひく時ちりのて人ぞ見しき

きゝ後
たまぬき 坂上好蔭男

続古今雑上 天暦御歌
月ぞすゝる月あれどこの月のこゝろの月よりある月ぞあき

後秋下
たなの月

古秋下 家 第六重出
さほ山のたゝうのうらうもれぐ秋ハふるゝも生ゆるゝ

月もくゝぬ月も秋きれぐきてるの紅くもみちひどゝうハ

五十 家持集 古本人丸集
もち月の時ゆあるとめれとゝ行ゝ待 大和 まゝるの山ハやづきうけり

万十
なゝの月のきゝぐゝのの方 山きりてゝふきゝこゝもの紅ゝいゝやまん のゝぶせき万

九月

童
九月のみるぶゝよ玉ぬけやて氏人ハけゝとのあてゝふきく

延喜式部式云九月九日菊花宴應召文人云云

續齊諧記云汝南桓景隨費長房遊学累年長房謂曰九月九日汝家當有災中畧登高飲菊花酒此禍可除云云

そゝ〳〵きの八十氏人とづけゝうゝ
ゝゝより和ハ勅撰哥仙哥集等ゆをかつて和〳〵こハもの〳〵ふれ八十氏人
八十氏川なとづくるゝ也ゝ誤ゝ
あるべし〳〵

忠見集
よゝづよも人のゝうゆる菊のよに
まゆをひらけて春をまつゝ所

壬生忠峯
古今雑体
くれ井のよゝのふるゝ〳〵あゝうせバ
いゝゝの沼のいゝふゝゝゝふれをのゝ
まゝ〳〵ゝ菊のよゝいをのゝゝゝふゝ

第二帖やゝの條ふいゝり

拾遺賀 小野宮太政大臣
よゝづ代ふゝ〳〵ぬ花の色あれバ
いづれの秋ゝきゝゝハ人ぞゝゝ
此ゝゝ本文ハまゝの歌ゝせをゝゝの
うゝふひゝれていゝ〳〵誤ゝ歌ゝ
工本拾遺本等ゆよゝてあゝゝめ
出ゝり

拾秋 新朝
長月の九日ゝふつむ菊の長もの拾ひまく老しゝるゆ

法皇 是誤ゝ拾遺よゝゝあるぞ所ゝゝ

後秋下 家
かぎゝゝ秋ゝ見ゝゝよゝひとのぞゝつるなゝゝる春の雪なゝゝるゝみん

古ゝ後家

いせ

丹ゝゝく

新古賀 家
いのゝつ秋ゝゝの菊の古いゝ法ゝの秋ゝゝ急てゝぎゝむ

家
玉ゝを人ゝゝゝもる玉ゝゝゝゝゝゝゝ菊のゝゝゝゝ

藏工拙
めゝゝゝ衣ゝ人ゝゝゝゝゝ菊のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

工

河 藤原
菊の花ゝゝゝおきゝのてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

新撰万葉下女郎花歌
女郎花秋在名緒哉立沼濫置白露
緒潤衣丹服手

家 夫秋五菊 貫之集 ちぐさの條重出
ちぐさの菊の中下もみぢ葉の夫

とぶ貫

愛うつへ　エナシ

家 ちげ家
秋のうつろ

おきうぞ

古秋下 家
ちやまうの落葉の屋のやどぞ秋に限りとはひとりある

ひとりもて

玉冬 代々 古来集 ハすぎあん 玉代
ふるてゆるるもんん秋を月時ものまぐふ玉集 さる藏

後秋下 貫之
もの月のあるの月ちあり後 あり後 ちあく秋はるぬでぬあり

貫之集
ものもをおい葉ちぬぬぬるまでぞ秋の葉ぬるくふ集ある

續後秋下 貫之 代秋下
すのふる秋すの月こそちらら山のおしあべ 續代 あへをづるけ

貫之集

以上三首

つるあき

古秋下
首ちくばるもゆんもみぢをめさまも匂て秋はいめ とも古 かく古 めりエ

後秋下
いつるる秋はあるめんおぢ一ふ秋ぬぎは秋まやふるんん 後 ぞ

以上 二首

うつね

頼基集
もんぢ葉のあがれてよもむ陵をそ葉ちく秋のるるくとふ歌 ふぢ童をそ集 基集

素性

古秋下 家
ちぐぐぐと袖ふとき入てもて出ん秋はのぎりくんん人のちぐ ハ古家

續後秋下
もみぢ葉ふるとうづそ行もあいづれすくふ秋はゆくらを くれ 續 れ續 の續

つるあき

古秋下 朗
夕月秋をぐぐぐ山よ時葉の夜の角ふ秋ちくくむ 山城

初冬

八
木枯のきるて秋をそ月を分も指よちぐぐふく風

古今秋下
もぐぐぐのあがれてくるるふるを夫
ちれあるふるき はやたくん

素性

万葉八
三野連石守
黄葉而折者可落梅花袖用古寸入津染者難染

ふきすれバたもとにしみけるかぜ風をいろあきなれとおもひいるとき

契沖云此條ハ神楽のうたとなきかぐらハ冬ぞおもしろすれバかぐらの玉勝間巻十云神乐ハいとハ神あそびとぞいへるされバそのかぐら

後冬　神楽用　期貫之

ふりこしみ宮めぐりの時雨ぞそのはなかつみける

かぐら月

後冬　ふるもぢのやまかぜのこのゆふ月照りそやそふるもみぢの

同　ちはやぶる神ぞ月うそのかれ枝をとりもあるまぢて

古冬　家持集ハ古今ニ入ル　新撰　立田川　古新　おりてのくかぐら月　時雨のあとをたてぬきにして

雲月

古詩諧　第五重出　さのうらまるふ人まねさのゑまぢ和ハ家ひとりめる

後冬　拾冬　金玉　第三重出　ふるのとと　ちはやぶるそこひもあへぬ雲や雪らん

同　ふく風ハ白もこゝろもおどろかぬ　寛　新万　おどろかぬ梢ぬる雪ぞ白ぬ

かぐら

新古神祇　家　河の社　ちはやぶるかぐらもいるる石せぐら　七日ひぐらしむ

古今集ハ神あそびの哥とぞ云

されさる神楽ハうけるもふるくハ神あそびとぞよもぎぐらとふ名ハいろあるようそいつのねどりいひとぐあり云ハ古国云かぐらてふる人後の世かぐらぐ俗ハ神楽と云初るを考ハらくるもいとぐあるくハ神ぞ洲楽をバ考ハかぐらくとゐる

俗言あるべし」

河社のかハ法説きちくあれど契沖が河社ハ證を引て河社夏祓ハやぐて夏神楽といとれるはし

家　ゆくかぬよりそいのるる河のやー河川流るくあそぶこゝろハ　ある家

拾神楽　家　足引のやまの柳のとき拾　柔拾　ときそ柳る　落ようさうもる　神のきぬまも　考拾

家　柳　柔の　家十三　あるべあがけくふ命たもてる神のきまうも　考家

家　夫冬三　よ人ーび　ちはやぶるあそぶ武足引の山人いまぞそなるべーなる　家夫

新古神祇　家　第五重出　山人の　も家　ゆふだすきかみてゐを後よりすーむ　家

新古　家

以上六首

豊之

古大歌所　神　ちはやぶる　おみぐ枯　柔柳ぬ　柔の立さら面べき神のきまる武　名古

神　拾神楽　さう木ぐ　ゆふ　きぐて　拾イ　なぶ　ふち　神拾　神の法ぞ　ちはや　神　ふる　ふん

古大歌所　こゝぶ　せこ　ぐあ　ぶ　の　ふよ　や　人　ひ　ふる　ふる　ぶ　ふ古　ふ　ぐ　さよ

きぐ　ふく　の古　大和

同　神　大和　神　ぶ　の古神　の　柳　柔ハ神の法ぞよ　ぶ　あひよ　を

同　神　朝　ふ　ふ　人　ふ

新撰　金七

以上五首 異文 或本

いせ

家 中務集 きさらぎの中

春がすみ井手のもみぢのなかりせば
花を見ましと思へばかは

万八紀少鹿女郎

志賀の山
志賀の山ふるさと雪ふりぬれば梅の花咲かぬ
春ぞなきける

古冬 金玉朗 世家 大和

ねさしとて
ねさしとて春なきものとなりにしを
なほ鶯の
なほ鶯の春をしまちかねて
なほ鶯の春をしまちかねて

後冬 伊勢集 後集

春をまちかねて
春をまちかねて
春をまちかねて
春をまちかねて

古冬

春の来ぬ
春の来ぬ
春の来ぬ
春の来ぬ

万二十

春の来ぬ
春の来ぬ
春の来ぬ
春の来ぬ

佛名

京極

つゝみ
つゝみ
つゝみ
つゝみ

後撰夏

不ぐぎぬきのるきかちのあぐ
きちかつのきのきぬ

よしへ

続後紀云承和五年十二月己亥天皇於清涼殿修佛名懺悔限以二日三夜申畧内裏佛名懺悔自此始

契沖云うゝ月四季まあるあれば冬ハ一年をすべをるまりて
ちゝまつ
尚書堯典云帝曰咨汝羲暨和朞三百有六旬有六日以潤月定四時成歳云云

拾冬 家朗 新朗

年のうちにはつもるはかりしるしとせよさきんあん
家 きさらばかりてみぢかくてみぢかくてあるこそ

古春上 家朗 第六重出

うゝ月
梅の花
梅の花
梅の花
梅の花

伊勢

後春下 家 序

うゝ月
うゝ月
うゝ月
うゝ月

後撰

春ぞ
春ぞ
春ぞ
春ぞ

万葉十

秋萩の
秋萩の
秋萩の
秋萩の

今落長雨之零比者一起居而鶯夜曽大寸

拾遺物名

あざ
あざ
あざ
あざ

花の
花の
花の
花の

後夏

五月
五月
五月
五月

同

柳
柳
柳
柳

七夕

七夕
七夕
七夕
七夕

後撰

七夕
七夕
七夕
七夕

兼輔集

五月
五月
五月
五月

宇津保藏開下云侍ふのひとゝと菊
いとたゝいらめたゝうろひてあさ
ぎけふいらめゝゝ

後冬三歲暮

月のすみあまうよ　たゝざれば　後
ひかりのこれば　ゆるぎたみ

古冬貫之　新撰朗

ゆくすゑもみすまして　ゝゝさんよりれめゝ　ゝゝ

みかり　秋

古春下　家

たゝうこまの月のいるぎくるおもるこの秋

同冬　寛新万　宗千集

ゆくすゑもつひよとぞ　ゆ　寛新万　みどりの　暫

ゝゝてまきこのゝゝ　壯ゝ　かぎりなる

賀之

家　古家

いひうきまるゝ　ゝゝ　家

古冬春道列樹　新撰

ゝゝて　古新　大和

後冬藤原敦忠　大　古本敦忠集

月のゆくも　大

家　ざり家

ゝゝ　ゝゝ

懷風藻　文武天皇御製

月舟移雲渚　孤嶼泛霞濱

万葉十　詠月

天海月船浮　桂楫懸而撥　所見月人壯子

同二　大石御歌

天原振放見者大王乃御壽者長久天足有

同　人丸

齒刺日者雖聚有烏玉之夜渡月之隱長久惜毛

家持集

ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

同　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

貫之集

ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

天のゝ

万七　拾雜上　家　夫雜　星

ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

あめけ　ゝゝ　ゝゝ　万　拾

人まろ

くされめ夫　万藏

あべのおほまろ　中務大輔正五位上　船守男

古歌　土　新撰　金玉朗

ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

万九　新千秋土人丸　雲秋中人丸

ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

万十　古本人丸集　夫雜一歌

ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

ゝゝ　ゝゝ　集　夫

ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

新勅撰品御形宣旨

大[illegible]

[illegible]

[illegible]

家 なごのむまびくるまき物と心すそ入日さすそ入日さすそ入日さす

古今春下　つらゆき

[illegible]

後撰冬　よみ人しらず

[illegible]

万代秋上　実方朝臣

[illegible]

古今秋下　よみ人しらず

[illegible]

拾雑賀貫之家　[illegible]

[illegible]

同意三人名　第五重出　ぞ拾

[illegible]

玉意二　代意二　躬恒集　夫夏二月国　第五重出

[illegible]

秋の月

古秋上　[illegible]　新撰　小町集

[illegible]

後秋中　貫之　くあわど後

[illegible]

後秋下　貫之　けく後

[illegible]

拾雑上　貫之　秋の家

[illegible]

家

[illegible]

以上五首

躬恒集　[illegible]　延喜十九年九月十三夜[illegible]

題あり　[illegible]

[illegible]

真淵云十三夜のうたこれをもてもじめ[illegible]

堀河院百首　紀伊

[illegible]

公忠集

[illegible]

真淵云[illegible]

拾雑秋　躬恒集

[illegible]

古秋上　[illegible]　新勅　朗　新撰

[illegible]

古秋上　後六

[illegible]

家

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

重之集

[illegible]

こつ紅

[illegible]

大江ちさと　登議従二位

[illegible]

伊勢

[illegible]

初学記引蘆菅安天論云俗傳月中
桂長二百五十丈月輪内有之下有
河此木秋花開云云
きく酉陽雜俎巻一に月中桂あるよしをいて童蒙抄ふ樓炭經説
引くるハ附會あるべし

秋の夜の月

久方の月ぞこのつくも秋ハ初家童家集新撰家童

ふるさと

秋の夜の月ろ光あらそ山城くぶの山も秋めぐり哉

ふこの夜

秋の月光ゆかくてる物あらばやこるふる秋ぞまづらざほ後秋中

あきぞ海ゆうつ月を見てう波よ何へどもこのそこ後同

秋の夜ぞ月の光をつきれど人のこころのうちハてくさぶ後同

紀のよしつぬあそ

ひとりあそ秋やよ夜ん久しの月の桂ぞいとものそこ後同

ひきのつき入ぐてるつさほ山のお葉ハこそ雲をあるらし大和

章璀兩陵縣大農陂記云翠瀲掩岸
澄瀾洗月
散木集秋
天の川岩子あるやあふこむ
きくくもすめる月のうげ
こふよりこのあそんとのるあや
まれり工本ふこあちとある
る従三位長谷雄男あり

契沖云新ハ多くとよむ四重ふ
らぐ故ぞの別ふ新を立てる
外人古今序云あ人ぞ多新ふ
もつぬるぐのこをあんくバ
せ新ひるこ此くぐ十ふ新ハ

万十

ひさかき秋の月初月ぞ物思ふ人の秋きめよ思つも武

冬ぞ月

寛是則新万拾冬

みくの池の上ハ氷よとそ月ぞ拾つ新

是則集

つくゆよ

雲秋中家

降ぞ雲るそ月ぞれどめれてさそ雲るさ衣ぞあき

お形ぐく

後冬

めぐるのよるのくまふる後ふる雲ハてる月新のたまるふり後

寛冬新万朗

大空の月ぞ月ぞ月ぞ

大和物語ハとぞすてゝ山と名づけし
ゆゑ〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵ハ雑賀
藏經葉老國縁第四ハ〳〵〳〵〳〵〳〵
をこゝのくるのまゝめ〳〵てつゝ
たるなり」
朗詠云秋水漲來船去速夜雲收盡
月行遲

拾雑上貫之家
思ふ人あらふ人よ久方の月ゆくあれば稀にまれなる家
いとゞ稀〳〵れね家
藏經葉老國縁第四ハ〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵

万葉廿
和我夜度爾佐家流流奈豆之故麻比
波勢年由米波奈知流奈伊也乎知

百 続後雑中 山の端よいざよふ月をいでんと待つもとるふ折そ又よる

同六 河水摘花 あさまのくさふまばくるる山のもふ出さる月のこのゝそれいうに

古雑上 人麿 新撰 第二重出 おそく出る月もみるふ足曳の山よあをくもとむべくこそ

久方のあまてる月は雲まより人の影をぞ見るこそ

古雑上 業平 伊家 おほうふ月をもめでゝこれぞ人は老とるるもの

万四 河内百枝娘子 ぬばたまのこゝ夜の月はよけふまでも長はこすゑたるこそ

同七 玉梓下 古本人丸集 天なるの天の人はまろ出るこのそぶこよひの月のさやけさ

同三 久老 沙弥女王 猿丸集 ふるゝ樹ゝ山をたゝかに木ぐれて出る月のこゝろまもるこの紀

大和 ゆげのこゝ 万葉と正しと

同六 湯原王 天なるまて月隠男まひあをんちよひはもさいわゝつけそも

弼佐家

万葉十一 自高山出来水石鹿破衣念妹不相夕者

能因歌枕云十九日 移まち

宇津保物語 巻三 二月廿日 ほとゝぎすなきて云こゝ何まれ月ふ者のなかぞ月も移まちをきのふとゝひて云こゝなかぞこゝえて移まちの十九日あるを八雲御抄 移まち ふゝまち廿日月ありこゝまち

後雑三 上野峯雄 大ゝふ山の峯もはひゝる雲あゝ山のあしぐそ後伊 あゝ後伊

万上 雲條重出 ほゝぐさこゝふ山はきゝ月折る雲のたなびきそ

同四 安都扉娘子 みそゝ山月の光はたゝひゝめいひしゝ人は見みゝる

あゝ折まて 傳未詳

同六 夫雑二山 あまのくれ三笠の山を言ゝも月の出こぬ折る夏まゝ

大和 こゝ

万四中三 思へゝぞ月のもれて出つゝん かゝりさるゝ雲の上より

こゝ色 ふの色

ふまつとおきゝる月まゝ見るまを拾まちう月はうゝぶきゝる人

きみまんと移やすもとれば拾るゝ月人のゝゝぬさゝとてあゝし

枕

三日月

坂上らうめ

或本 いまと かんつけのみゝけ 後撰を正

とすゝ

さゝゝ月 ゝゝを後 ゝゝ月もゝゝと中

万三 久老 猿イ 夕月ゝ

よゝ月 ゝゝ月

万十 ハせん万 ハせん万 ぎゝそ万 ちゝ色 ふの色 ゝゝ枕

後拾遺今案家坂上是則
絶てまちぬまちの月もてるもの
あはれ〜とをちこちの月見
とゝもされぬ世にはあはをうみて
昔の月にゝゝられば絶まちハ物
ナカるあるべきやの」
書紀仲哀紀云八年秋九月乙亥朔上幸
金盛国而有寶国譬如美女之眉有
向津国（眉此云ミヤ　用御祓）

万六
月をもてたぐ言葉のまゐねきけ
ぎ万　の万　らん
遠つ国あるらも

赤人

同　さけて万
ふりあふぎて言葉のまゐねきけ
き万　も万
ばひとめ〜人のまゐきおもわる式

古詞諸　ものおもふらるもある古
よひのつるよ出て入めるこ言葉のられてもおもを思ふらる乳

三日月をられて物を思ふと世よふるとびハ出るそのこゝ

夕月拍

古憲二　猿九集
夕月拍さやゝ見べの松の葉ハいつとも
きめイ　ぬ言もする式

いへのおとゝろ
万葉を平と
まべ

同九　夫秋四月
玉ぶれのこすゑもまとゝ行ひとゝ
夫　夫
ひとゝるもあき夕月夜このも

大雜三山
おあ夫　ふりとさて万夫
ちびるを
ばよひよ立出て万夫　迎江
思ふ言葉山よりいてゝ
万　万
ものを

赤人

万十　新拾春上赤人家
春たちぬびく紀の新夕月拍きてゝ
万家
むたらまどのみ
大和　やま新
ゆふ月拍あぐるまゝ人をこゝとゝ
寛新方
ゆふまきれぬん拍こゝ出ゝ拍

万七　古本人丸集
春ハさも見ハめまものを
春　本集
ゆて方
同八湯原王袖
夕月拍ちも高
ナシ万袖
ゆふ白雪のおくらん
この万袖
春ゆ
こゝろぎふも万
ゆきりすゑく袖

ありけみ

くもみを

古憲三　古本集　新明　第五重出
ゆふ月のつゆ拍くゝ
ゆふ
ゆふ
ゆふ

あらぐ〜 此後よろ〜 思さめ〜 此歌、家
第五帖人をまつの條を出てのち
のうらハ新古今に出さう

出てまぬ山もうらぬも月の影をこそまて　家

万十 人丸集 家持集
白雲を遠ゆ那てる人なゝの月はあきの明のつきよりこそ特八人

同
おぐれふる時雨は月をひとぐきとうとくもしるものを方

ゆふやみ

同十
妹ゆゑ
あけくれまくらに行てそく夕雲の木のまがくれの月はゆゆしと方

後意五 大
ゆふやみ
されば大
雲もなくなどおぼつかなくとうゆまるをてぐるる大

大宅姫女 傳ホ詳

万四 新勅意四
夕やみの道たどゝ〜月まちてかへりまことゆゆしせこまるまうん方
伊勢集 されば新伊

ほし

代雑二 夫雑一 忠峯 袖
日くれば山のそらゆいづる代夕つけ行てよこれどもらぬ代夫
つとう五ゆ命ある星の数あれや人よまゝとでつゆのへめまきば

真淵云 東ハ俗字にて四阿をいふ
すやとふふせやとふいぶ手まふ
せやを板すてふべくもあれ
和名抄居宅類云唐令云宮殿皆四
阿和名阿豆萬夜
予が蓬本にあづまやのまやとあるを
正しとおぼゆ 催馬樂に
あづまやのまやのたのまりの白そぎ
ふれさちめれぬそのうひうせ
古今誹諧 きのあくも
ほひ〜まくかい〜ハ子あくみあぐら
人まつきあくまもひそすれ

東屋のふせや板屋のあまぬよう命の行しもうるるあう命 欲ヲカヌ 不逢ヲカヌ

月影に葉ぐらふれまそうたの星のなりぬにはいとこそ

夫雑一 よ人〜ぶ
よりひぐらふたちも出ぬ夕つけ月あき命の光と思ふもむ
よりゆ〜る夫

万十
ゆふつもかよふて命の〜ハまくほしの夕されば命ふ人もる我こそ命
恋人集 夫雑一 人丸 欲ヲカヌ

春は風

たる風の吹そめ〜よう風はせの初まみて花ぞちりける

吉春下 家
花の色ハ中絶よりめてみきぶともかをぶるめ手あまの山風

大納言 安世男
とうこの宗貞

左近衛少將 滋賀男
春風のよ風

同 京 與風集
十花の風そ花のあるうまよきてふけいづるやうつろとうん

後撰春下
風をぶまちてぞ花のちりあまし
うろづ〜やうろふぶうさ

つゝみき

東海ようぞ世ぞ文字いるぞやは
四あづまのくにふつまをおきるる人の
うるあるべしとなまくはつまをふ
書紀仁賢紀云弱艸吾夫阿怜注云
阿我圖摩播耶言弱艸謂古者以弱
艸喻夫婦故以弱艸為夫
伊勢物語
むさしぬはふふぞそそろろのつまもこもりられもこもりをも
朗詠云誰言春色從東到露暖南枝
花始開
後拾遺春上まくはなのようきしるとい
ふをよみ侍る　源師賢朝臣
東海ならぬその空もあるものを
いづくとまるれはまえてきらん
万葉よなどの海とあるよ　越中の

拾春　家　吹風もいとしもたてて　拾家　梅はなもちるる時で多くまきりる

躬恒

もとする

古春下　寛　新万　ちる　古寛　新
このもとにちるはなのやまべは吹くる風ふるの多ぞ
第五重出
夫はまづ東海ようぞ
ある
さてのそつてよむさしの風

げ五

友則

古春上　寛　新万　新撰　家　新朝
第六重出
ちるはの魯城風のたるへてぞ
嘗さそふ
きぐるふやる

拾ぜん

同上　家
花ちる風のやどるる
ちるはもあるよりへよりて拾うん
ちるはもあるのもの人は見ひとをちる風ふとがうるるとしいつげん
万十七　家持　夫雜一風
あるべしなぶの海士の釣をるとみさしうへるる西

ど万夫　こしふ夫　たき万夫

拾雜春　こふ　ちる風ふ花のあきまれて吹をてみ吹をふバ見ひあくてるべく
續後撰春下　よ　ちる
おもふようふあぶるる花のようのけき事の風をうめし
後春上　すくしば
吹風やまさ立きあと告つん梅はこれるを吹るきり
新万

伊勢

家　おい風家
まちぶせの系ありぶ
しと家　吹こぶバ芝ぬ
みるるの家　まるる花をこまや
續古雜上　代春下
雲春中　家
ちるはなるよ伝のうつるる
ふ續雲代家
夏の風
て續雲
ふくら續雲
ふ家
吹

拾夏　家　ちる　拾
ちるはまぶ
寛　新万　夫雜一風
ふくるる
第五重出
ふくるる五
同　同
ふくるる
の寛　新

こつね

序拾
ちる風ふ立ちうりる
おもいん　寛　新
おもふ人ふバ五
ふくるる
おもふ人の
ふくるる
ふくるる
ふくるる

新撰万葉上秋
松之聲緒風之調冊仙手者龍田姫
子曾秋者弾良咩　左詩云
翠嶺松聲似雅琴秋風和處聽微音
夫木夏三蟬
さのゝゝそ　ひぐらし山と人はいへめ
ちゝゝてもなく　ゆふぐれのこゑ
契沖云　此ひぐらしのこゑは夏なり
雜ゝ例のまぎれあるべし
新撰万葉下夏
夏之夜之松葉牟曾与冊吹風者五
十人連敢雨之音冊殊成

万葉八
吾屋戸乃草花上之　大伴家持
白露乎不令消
而玉爾貫物爾毛我
同二長歌　人丸
時風雲居爾吹爾奥見者跡位浪立
云云

寛　新方　新拾夏
秋さらばひぐらしなくなる松風を　暫拾
大夏三蟬　八寛
ひぐらしの　なくこゑ聞くと　山の端の
月　家
秋の風　吹くれば　なつの日の
拾雜上　家　第三重出
ふきあへぬ　秋の風　ハきもあへず　池の水
おもてに　家
五品顯里　又八　新勅意品　家持集
きゝつゝ　ひぐらしなくなる　夕ぐれは
家持集
玉ぼこの　宿のすゝきを　ふく風の
夫雜品
うちなびくなり　秋の風
秋の風　吹くれば　なつの日の
万廿大伴池生　夫秋二薄
すゝきの穂　ふく風の　こゑ方
秋の風　吹くれば　ひぐらしの
なくこゑ　あたらしき

巻本よおいの耳とありそれとも
夫秋　秋風ハ　吹かれ山の
同　家持集　あれ方　時と　家
後秋上　秋さぬと　色づくる
万八家持　玉憲品　風の吹　あれば人の
ふくる　風の日　あきの方　ふけば方
わびしくも　音のさまかな　以風　ふぐるふ　秋ハもえ
百十　新續古秋下　人充集　雲秋下
ふるつも　稲の葉　ふきみだるる　きぬ　人充
古憲二　秋風の　ふきてふれば　つまもなき　人ぞたのむる
家　ナニ家
このぬの　ふる　秋ともあ　武久方の
雲秋下　家　ちゝ家　ちゝ雲　大和
ちゝゝぶの　ふれ　搖て　秋風ハ　とるや　ちゝ　ちの山もとゝ
ちゝ家
以上二首
要ス
ちゝ

此うた拾遺ふうたとあるは誤なるべし

立賀 拾遺秋上 類聚古今集 夫木集

[illegible]

後秋上 家大

秋風にたなびく雲のたえまより
もれいづる月の影のさやけさ

同 句合後

[illegible]

同 慈五 家

[illegible]

後秋上 [illegible] 後

[illegible]

万葉四

[illegible]

常念者

大伴坂上郎女

[illegible]

拾遺秋

大中臣能宣

もみぢせぬときはの山のふもとすむ
おのれあきてや秋をしるらん

古秋下 拾秋能宣 新撰 小町集 第二重出

[illegible]

後秋上 [illegible] 後

[illegible]

万十 [illegible] 万 お万 第五重出 家持集 古本人丸集 [illegible] 万九

[illegible]

纏古秋上友則 河七女

[illegible]

後冬 [illegible] 後寛新

[illegible]

寛 新方

[illegible]

契冲云此ふきくれぬのうたの作者を後左今ハ友則と申るハくはしくしらずきまてる説なし歌集にもあらぬこと[illegible]

此うた万葉に夜袖山下吹而とある訓をコロモデニヤマオロシフキテとあるハいかゝ〳〵アラシノフキとよむべし和名鈔風雪類云孫愐云嵐山下出風也[illegible]

つゆ〳〵万葉に於呂之とよめる歌ひろ〳〵[illegible]山おろし〳〵ふく[illegible]

[illegible]

万十一 新古憲三人丸 夫秋四月 雜三窓

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山里は[illegible]

[illegible]

[illegible]

万葉ハ吾共所沾者をワレトヌレヌナ
とよめふるゝ者ハ名の誤ろて
ワレサヘヌレナとよむべし

宇津保菊之宴下云ひぢらさるふり
かゝりひゝめきて云〻
枕草紙云名おそろしきものひぢ
らさまめ
袖中抄巻一云此ハ万葉をやと
らげさるゝ歟三のクひさゝをひぢ
かさとさゝるゝひぢらさるゝいふ
不ものゝ云〻

万葉十一
笠無登人爾者言手雨乍見留之君
我容儀之所念

万十 赤人集 みこころハいくゝ行めや万 ものもさきてるゝむ形ぬゝふゞ七夫さゞとや 夫春三 ものもさきてるゝ夫赤
同 同 家持集 いまさゝふ思ふかのあきそ来る白の心を人のきゝさゝ形くに 也赤 ひと夫 いまさゝふ持 よもこゞ持
同七 古本人丸集 つゞきもこゞあゝものもさゝやきゝ思ひてやゝ人 もるまこゝを人
同十 赤人集 ふ万 ゝふせゝもやいひてすべあゝ来の白ふ踏ふるゝ万赤 ぎ万赤 くる赤 ゝこの岳
同十一 催 いもゝ門ゆきるゝうゝつひちらさゝる万 て催 さゝる万 ふゝ万ん あまこゞゝ思せん ゆくゝとよゝふ万 うきやゞゝもん催
同 あゝ山ゆきゝようもつけみまわゝゝこひてくしぬ白のふる白城 くほゝ万 ぞ万 しゝ万
同七 ゝふゝ万ゝて万姉ゝゞかゝゝの万と万来ゝるきゝ ゝゝも万
同十 王憲人丸 家集 秋ゝきゝよおゝゝなゞめゝふる万ゝゞハ稲 新ゝる ゝ意るゝゞ万ゝ万家 こゝ万三 ゝき家
同四 久ゝゝの白もふゝめゝゝのまづみるゝたゞひてこの白ゝゝさん

赤人

同十 赤人集 来の白ふゝゝゝまを立ゝれ姉ゞ万ゝ万ゝ万ゝ万ゝ万 ゝ万

千載春上 和泉式部
つゞゝとふゝハゝゞの白ゝるを
ゝゝのもゝゝ人のゝゝるゝん

袖中抄巻十九云さゝゞゝふゝゝ
ゞるゝふゝゝゞハ初のやすめゝ成ゝ
さゝゝゝ物とふゝ兵道命ハ関梨の
ゝゝみゝふ
ゝゝゝもゝれ花のゝゝふゝきゝゞ
さゝゝゞゝゝや人のゝもハん
桜をかるゝとゝふゝゝもゝゝゝゝ
後撰春上 友則
ゝのゝやゝにあやふきゝゞゝ来ゝや

久ゝゝの白ゝめゝふゝをこのまつゝといづゝのちゝゝゞゞゞゝよゝゝも
新古春上 ふゝてゝおゝもひおきてゝゞゞゞもゝる来白ふ花の下ひゝもいゝゝとゝゝゝゝゝ
ゝゝゆきゝ

後春下 新朝 来ゝ白ふ花の枝ゝゝゝゝゝ

いけのこゝろを[illegible]

後春中　ふりぬとて思ひあるとびとまこもたぐふやもだきこゑ[illegible]　この後

古春上　新撰　[illegible]

同雜上　拾別　家　第三重出　提津　[illegible]

家　かきくもるゆふべの道をぬれぬとて山城山よもすがらこの[illegible]

以上四首　けこめま

[illegible]

夫雜一　よしみ　[illegible]　ふけり夫　[illegible]　ふる夫

童　[illegible]　ぶ童

夫春三　よしみ　[illegible]　へ夫

[illegible]

契冲云張孟陽が詩に騰雲似湧烟密雨如散絲とゝもゆるを[illegible]

[illegible]

古今戀一　在原元方

おとゝしもきてあふさかせきのあなたとよりてあふさかせきの[illegible]

伊勢集

かくさくも[illegible]

[illegible]

夫春三　よしみ　家　[illegible]　近江

[illegible]

同雜一　[illegible]

古戀　伊　家

[illegible]

万十二　拾戀五人丸　人丸集　[illegible]　万拾

[illegible]

後春上　よしみ

[illegible]

同　よしみ

[illegible]

後撰　[illegible]

[illegible]

古今戀五　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人のこころはさもあらばあれ

法師

大遍　思ふ人百とせすぐるまのあべがはるとだやぬあらざらまし

後春三長谷雄　春の色ふるるやふるふんかこる枝よりもろもろ

新拾秋下人九　夫雑　[illegible]

兼盛集

きくをだに思ふ数ならぬとばかりの

ふるるふるのあるもの

古今大歌所

[illegible]

後春上　春ふかみ山ぶきのまゆ[illegible]

古本集

[illegible]

家

[illegible]

大和　[illegible]

或本

みつ紙

伊勢

[illegible]

伊勢集

[illegible]

綺語抄上云　[illegible]

[illegible]

万葉十一

情者千遍数及雖念使乎拘遣為便之不知久

むらさき

万十　拾雑秋　人九集　[illegible]

[illegible]

夫雑　[illegible]

[illegible]

[illegible]

万葉ニ落僧惜毛をチリソフヲシモと
よめハ[illegible]僧ハ俱の語にて夫
木のだく[illegible]

風雅雑上　和泉式部

[illegible]

古今秋上　大江千里

[illegible]

万十　夫秋三赤
[illegible]

同　玉葉二人丸
家
[illegible]

拾遺[illegible]家
[illegible]

代冬　家
[illegible]

[illegible]

新十　秋下　雲秋下　家
[illegible]

家
[illegible]

以上五ツ

[illegible]

万葉十一
千葉破神之伊垣毛可越今者吾名之惜無

家持集
[illegible]

玉葉四　貫之集
[illegible]

万十
[illegible]

同　是則集
[illegible]

後冬　友則集
[illegible]

同　大和
[illegible]

同　家　素性集
[illegible]

夏のもとの像に出
[illegible]

万十　又十六小朝臣　古今六丸集
夫雑四野
[illegible]

[illegible]

万三石上卿 新拾遺旅 第五重出

[illegible]

同上

[illegible]

雜月條已出

[illegible]

紀記

[illegible]

天照大神御歌

[illegible]

古戀二 新万 家賀之集

[illegible]

同離別 家

[illegible]

万三春日王 夫雜十七帝王

[illegible]

大和

[illegible]

伊勢集

[illegible]

真淵云万葉ニ某集ニ出シトイフハ其人ノ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ

文選歸去來辭云雲無心而出岫鳥倦飛而知還

[illegible]

古物名貫之

[illegible]

橘のあるもと　長門守長盛男

後離別　朗　金玉

[illegible]

貫之集　夫雜一　雨よりとぶ

[illegible]

万十　八万　二万　大和

[illegible]

同九

[illegible]

同十　風意三十八　古本文化集　第五里出　古

[illegible]

古本集

[illegible]

人丸

[illegible]

おもひ　古　ひい　ひい

[illegible]

おもひ　古　ひい　ひい

[illegible]

おもひ

續後拾遺戀一　仁和御製

[illegible]

貫之集

[illegible]

家

[illegible]

家

[illegible]

家

[illegible]

家

[illegible]

いせ

[illegible]

おもひ人

[illegible]

平のあぐき　右大弁秀長男

古今誹諧　よしみつ

[illegible]

後雜一

[illegible]

露

同

[illegible]

さがのきさき　贈太政大臣　橘清友女

[illegible]

寛平歌合

秋の夜はあまてる月のひかりをは
おくしらつゆをなにとそそ〻ん

抱朴子内篇極言云命危朝露
涅槃經菩薩品云觀是壽命云云如
朝露勢不久停

後秋中　家

小野の宮の[illegible]あるもの[illegible]秋はおけるしらつゆをけぬべし

法師なき

おなじ人

同　寛　新万

秋の野のをばなをもしらつゆをなにとなるらん　八寛

夫夏二夏雜　なつの日ふしのゝ山の[illegible]ゆるあれやきぶゝの[illegible]ふしおくらむ　山夫　やる夫

古大歌所

みよしのゝ[illegible]ひとりさくまもせらぬ陸奥の山下露のはるはまつれり

要　こく

後撰　家

[illegible]をおもふ[illegible]をおもふ[illegible]あらの野べの露

後家　くさ家　うきま家

万十　古本人丸集

夫秋二萩[illegible]

白露はいざとゝ[illegible]ぬべし　不方

水　指

いせ

絶羽遠集云命倏忽誰保譬明際之在梁如風露之停草

続古今雜上　伊勢

[illegible]

万葉四　大伴坂上郎女

不念常曰手師物乎翼酢色之變安寸吾意可聞

古今離別　[illegible]人[illegible]

[illegible]

[illegible]

万十 人丸集
[illegible]

古憲三 業正 家 第五重出
[illegible]

後秋中 藤原清正
[illegible]

万十 新勅秋一 人丸集
[illegible]

後秋中 [illegible]
[illegible]

同 拾秋 家
[illegible]

同 伊勢集
[illegible]

万十 新古秋上 人丸集 家持
[illegible]

古今秋下
[illegible]

危のさきあぶあやふきとゆべし
されどこゝハ初後撰家集等よりとるとゝとすべし

伊勢

清門のきうへ
[illegible]

万葉十
秋萩子之上爾置有白露之消鴨死
後撰恋爾不有者
吾屋前秋萩子上置露市白霜吾戀
目八面
このゑさうさと二さゝふまあやまりさう
なりさる例集中よ多し

秋[illegible]
[illegible]

万十 古本人丸集
[illegible]

同 第五重出
[illegible]

同
秋萩[illegible]

同十
[illegible]

古秋下 新万 異本家集
[illegible]

後秋中 家持集 家 代秋上
[illegible]

[illegible]

古今離別　籠

あさぼらけ　ありあけのつきと　みるまでに
おもひ　いでぬる　ものは　なかりけり

貫之集　古今宗于集
あさのゝ　やまの　ぬけ　ぬけ　ぬけ

人丸集
山河のいさまを見てゆくあき
ふくきりもあらじとそ思ふ
後撰秋下　元方
おそくとくもちく山のもみぢ
われさへぬらすあやおとん

本の葉ちる秋の末づくよそぼちつ
貫之集　菊の花宵おちそひゆくのはふきんを集
新古哀傷遍照　朝　ちるとの宵やせの中のおくふ生そうため
貫之集　廿

冬　く

家持集　ふよふけぬ持
ふ契まつときあらば
万十九家持　みくれやの持
あひきの山のもみぢよ宵あひてあつまふべ城るつや城ら
ちんふぢ方　ぐこえまく方
わくぎにいくまあ時きづくるたのめも宵ぬ待きぬ
ぬれエ
契中云憂不干を等ふいひみさう
ちをとあはあやまれさふ
承暦二年友上哥合ふ　兼中納言匡房卿
いふあればさるくるふうぐひすの
おのれが名をぬ人はつぐん
月をもぎあるてうぐひすと時と
よあるうるおわひがとこひとく
ひとくとおくふるくよあど
古物名敏行　廿
いこのいの花の宵にそぼちけうこひぞめるの時むむ
貫之集

以上　二首

冬　く

ひとまろて

万七　續古歌旅　古本人丸集第二重出　あき方
めぐる玉の玉　下野　さ續　ちまつ方宵
山をけふてくて きづくよくめれよるる
やまーさ家は　万宵
ちまつ方宵
うも万宵
たつ田ふ續

いふあるる等るおのが名のやうに人等
けるおぼつるふ

忠峯

九日條已出
ちるる菊は宵をおくとうめまたを社老のるまきれ

いせ

家　ふるふ雪の玉おもるる花なればをれるる宵よけまぞめれめる
ゐるはつぐくそぞめれめる家

おなど

家　ふ家
ふおもるのきくてうきる分の宵うそ袖たるまむまでさくかりはれ
まる家　やううれ家

かすく

文選呉都賦云露往霜來注云露秋
霜冬也

万十　新勅春上ふくぶ　ちき方
ふるるてたる之ぬ
古春上ふくぶ　新撰　朝赤人
たるる雪はたてるるやづこみよの
同雜下藤原勝臣　新撰
人ふふ思よいをたる宵出くるるがめまくくなる
貫之集
このたてくるるそぶふあるを雪宵はめるるるのたるうなるれ
あ集

興風集

山ざくらはなるのほどはまどはれて
すぐるうぐひすぞ鳴

坂上是則

續千載戀四

秋山はたのさたつきのこゑあて
されぬ物をおもふころかな

躬恒集

人めをも今はつゝまず春ごとに
のべの山ぶも名をたぐべしや

後春中興凡　家

山風の花をこのあらふ春後
ふる春の雪ぞほゝ〜ありける

古春上行平　新撰

春のきる雪のたぬきをとゝのへて
山風よこそ雪ぐ〜あまき

第二重出　近江

春ごとの雪を練る雪たれぞも
物をおもふころの水

古感三　八代集抄

花ゆゑ名もおぼゆ　そる雪際みも山ぶも　こゝちよ行り

万八坂上郎女　新續古感立

ちるまぎ物よざうにるまぎ
ぐ万　ぞあ万新

古春上貫之

やまぶきはたちもの
ちるを山をちるも古

花のやをやをやをもをを
春雪をの雪をこゝに雪ぐつき雪の山べ雪

春雪をの一〜〜れば山がつの
花よりをたちもきてを桂

夫雜七　樵夫

やまぶつよりあぐきこゝろ
うつむ　炭焼ヲカヌ　やまぶつ　燒てもあまり

春雪をん山のあを春雪
春雪をのあをきるけいゝんとぞ思ふ

續後春上

春雪をの雪のこゝろも
春雪をやたつゝむ　ゆ續

拾遺秋

ちりぬべき山のあをををぎりの
やををもををぐをををん

貫之

拾遺意三

よゝ人ちぐば

まきもくのひぐらの雪ををつり
かくこをへこゑあらぬきゝを

同雜春　伊勢

はれををををふをうをめをぶやの
花をををぐまきゝゝぐ来まきぬ

續古春上人兄　雲春上　代春上　古春人兄集

春ふる日の山をを
き續雲　大和　ち續雲

貫之集

山の雪ををぐまを
ぐ續雲

寛　新万　夫春四花

まきもくよりひぐらの雪
大和　山に夫

古春中興凡　寛　新万　家

春をのすゝをのちぐきをゝこをるをたれびくを山の花をかげも

後春下よゝ人ゝ

ちをををををををををつけをを
をををぬを

万十　さぶづふいも万

うつゝきゝをををて
をををたつをゝびををれを
を

同　凡春上人兄　夫春二　赤人集

をを春ぐををををまきもくを
ゝゝ万夫赤　大和　ぬる万夫赤

同　赤人集　夫雜三嵩よゝ人ゝ

かげをふの夕ををり春をををびく
ゝればをを人の万　ゆづきぐたけ万　ぬ万
ゝり赤

同　赤人集　夫雜二山人赤

をををぐ春よををけの春をを
ゝ万　近江

春雪をの雪をを山雪をを春ををゝ

同　赤人集　袖　やま万赤

面まを紀る春をの春をを
ゝを春をををををををををを
ゝを春をををををををををを

同　赤人集　大和

をを浪ををば春をを春をを
たてれあれどもきゝがゝをふ赤

春ををの春ををををををの春をを
きゝぐ万赤

万葉十

秋去者雁飛越龍田山立而毛居而
毛君乎思曽念

織ハ大和ヨリ

つゆおきうをハゆづきがたけの佐名
をうゝたををうゝ　佐名ゝ号槻

真淵云山のつゝ〳〵ハ暇ことよせ
夫木秋四　霧　光俊朝臣
[illegible]
やまつゝ〳〵みゝゐる[illegible]

新後拾春上　よゝ人〳〵
[illegible]
夜中臣朝臣武良自　新古春上
[illegible]
照日條已出
[illegible]

家　なるを家
[illegible]

き　ま

[illegible]

朗詠云咽霧山嶺帝尚少穿砂蘆等
葉綜今

源氏橋姫卷ふ[illegible]
[illegible]

万千　夫春一嶺　古本人丸集
[illegible]
同二八九　第五重出
[illegible]
古雜下　よゝ人〳〵
[illegible]
同二八九　第五重出
[illegible]
古雜下　よゝ人〳〵　新撰
[illegible]

[illegible]

[illegible]

うめのかをわがふきまがへばかぜぶゝ
やまふこゑもれどまちくぞみる

後撰五三のもゝ　ちまくれどゝ
いふあやをふまもゝつみてつハ
るとゝも一端一疋ぞを書紀
又ひともゝとあり」
中務集
うゝちくたちつる雪のゝちまも
やくまちうはのけをそゝる

和名抄錦綺類云蒋勢切韵云綺俗云岐一云於利毛能又一訓加無波太似錦而薄者也
後撰秋下　忠峯
いくきくもゝゝゝ

古今戀五　　ともはる

秋風を　　

和名抄容飾具云孫愼切韻云髻和名毛度以組束髮也

興風集

古今秋下　　なりひら

古雜下　新撰　　

同冬　　

万八　人麿集　古本家持集　新古秋下　人麿

同冬　　

万十　作者未詳　新拾秋下　人麿　古本家集

古戀三　家　第五重出　

伊勢集

同十　拾冬　人麿　新朝　人麿集　古本家持集

万七　紀朝臣男梶　夫冬三　

異本貫之集

玉ホ[illegible]
よみ[illegible]
あ[illegible]
家持集
[illegible]
[illegible]
寛平歌合
[illegible]
つ[illegible]
万葉十
朝[illegible]者消流[illegible]頭草可消戀毛吾
者為鴨

万葉ホ大口真神原にある四一大
くちのまをうホ得り神を袖に
あ[illegible]
古今雑下　みちのく
あ[illegible]
[illegible]

後[illegible]寛新
[illegible]
万十　續後撰冬人丸　家　家持集
[illegible]
新古雑中　伊　紫平集　駿河
[illegible]
大[illegible]
万八　池田廣津娘子
[illegible]
同　若樗部朝臣君足
[illegible]
同　舎人娘子　夫雑　大和
大[illegible]
[illegible]
古意三　人丸集
[illegible]
加賀
[illegible]

人麿

新拾恵　人丸
[illegible]
拾冬　又恵三
[illegible]
古賀素性　拾冬貫之　異本素性集　貫之集　古拾素貫
[illegible]
後冬　拾冬貫之　家　月　後拾
[illegible]
古冬　貫之　家
[illegible]
後冬
[illegible]
貫之集
[illegible]
玉雑一貫之　家
[illegible]
貫之集
[illegible]
同　[illegible]集
[illegible]
同　[illegible]集
[illegible]
同　[illegible]集
[illegible]

貫之集
[illegible]
万葉十
左小鹿之朝伏小野之草若美隠不
得而於人所知名
[illegible]

貫之集　風冬貫之

[illegible]

同　代憲二貫之　あ代

[illegible]

後冬　[illegible]　躬恒集　第五重出

[illegible]

古冬　忠峯　新万　新撰　家

[illegible]

[illegible]　新撰

[illegible]

忠峯集

[illegible]

後撰戀三　ちん

[illegible]

入ふ　人のおとづれもきぬ

古今春下　よしみの宗貞

花のちるにまがふこゆきをなにとてかはるぬまのみどり

同興風　撰　人丸　寛　新撰　興風集

[illegible]

同紀秋岑

[illegible]

陸奥

[illegible]

同大歌所

[illegible]

大和物語

[illegible]

古今雜下　菅原のたかすき

なにはがたみじかきあしのふしのあいだをあはでこのよをすぐしてよとや

[illegible]

万廿　續後撰冬

[illegible]

同十

[illegible]

同八　忌部首黒麻呂

[illegible]

伊　古今業平集

[illegible]

後憲四承香殿中納言　大　え後

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛平哥合

ひとりまつ梢よかれるゆきをこそ
みのをとこはいつをとりけむ

新撰万葉下

冬来音梅丹雪許曽降絲倍何礼之
枝緒花感折申

万葉十

霜去者衣和寒之高松之山木毎雪

古冬貫之家
ふるとふればみどりのそらのはるさきまぬ花ぞ咲ける
貫之集
ふるゆきに花ぞ咲けるたのもしなどこのくらのくらのあるらむ
古冬
雪ふりて人もとまらぬそのあれや訪とも分く見しきりん
同
冬ごもりかくれにしかの花の下なくこゑのたのもしかるらむ
同是則家
あさぼらけ有明の月とみるまでに吉野の山の桜咲けり
大和山家
同
けぬがうちまくもなほそなれまたちかばかりまれる社
新撰
後冬
松のうへにうもれてのこる雪のうれをとりてはいとへうけ
同躬恒集
雪ふりつもるとみるまでに富士の高ねの桜咲きぬ
ふじのたかねの後朝
古冬貫之
うちなびくあるのふりあるる雪をうつくしがるはものをきてをしほ
まがひ古　ちりく古イ
同友則家新撰
をるふるまでに咲けるいづれを梅ときてわまし
同
ゆきふれば家持集
さ古
みやまのこずえもきこえぬ山よりのふる
ふじの山古　まの持

曽零有

同
消ぬるまはまるれば越路なる白山の名をこそ思ひ出でぬる
加賀

あらひと

万八朗卅　古本集
二月十五日ゆきのふりしに梅の花それとも見えぬ雪のうちにぞ
後冬
ふれどもとまらぬ松がえにあらはれる雪をとはばこそ
新万　のこずえにそれ後新
万十　夫冬三又雑二山
夕されば衣手さむしこの山の木の葉ちりにけるかも
雪ふる万　雪ふる夫雑
同　古本人丸集　家持集
ひとりをしてをけるかもしいまやいまと出でまちつつ
持
同　新後拾冬
見渡せばの新
見渡せばもとの白きはそれとも分かぬまでに雪ふりにけり
家持集　万
同　夫雑四野
ふるゆきのしたにうもれてのこる
大和
後冬
ふるゆきの梅もまだ見ぬ春の来ぬるにはかにかをるかな
と後
同　後拾冬
うつきにてはるのきぬるにはかにかをるかな
も後
同　古本
あらたまの雪をとりてみるがよはうつ
古本　もる古　た後　加賀
つもるものきえあるべし山

心ざしをちりてもきまさまづひあ
いづれうまれまさるとはなん

後冬　人おきてふぶくてうめをもいづれの春のちるままづへ
同　おーあべくもるのふもぶ系なの松をたづもてとふ人もなし

同　心ちりめづーげあく春やき後かりはゆるやなんまつもあ

古冬　ふるもへくぞけぬしろいの山のたきつせまきるなり

同　雑上　緒のトつよりつむもるの末をおくもとづちり系くるる

寛　家持集　大冬三宗于　月折ふいとそぐ山のたきつる井のさまふくーくるを後の掛いん

万　新古春上家持　夫雑上檜　まきくーよ檜系もいまぶくもねが小松ゲすもま涙もるぞふる

大和　古本人丸集　あくもへりさへふふそ白妙の袖きまきわさん人もあくあくん

同　第五重出　さくよりの系よもぶれぞぬわひけまぶくもちとへへまーておもわ

同　同　ひくめくーんまふくーくるもるけぬぐくおもわ

同　同　系きぐぶまくうくくーいるもけぶもひきもまぶ

契冲云まづうひは間使あり　万柔六
赤人の出系る間使裏不遣而吾者
とまめるもとぶめるておくあり

同　古本人丸集　梅よそそれもくくぶふるもるのいちぎろんなまづーけいやくぐい

同　夫雑四野　とまぶせの梅ぐよふるものけあぐく思ひまぶ吉ぶる

新万　思ひのるもきくればうるもおいくそすしゆくくあれば

あくれ

後冬　寛　新万　くきくふりのくまふりけ白玉を吉ける屋とも人のくるるぐま

家持集　雪ふり　ぬふりまふくれどひろひ雪ぬぐとくぬらばきぬべー

万十　系く袖よあくれたぐーよりまきくへーけるずくあくん妹がくんくを

同　古本人丸集　ぬのくもふり梅百ふくきくふたくぶくくひもとぶ稲系ん

同廿大伴十里　ふまのくよ雪ねちりーきいやまふあれはまるくんまをもく

寛　新万　ふりてあきーゆくくくはみくくわれもるくくくてまでくまる

覽平歌合

[illegible]

[illegible]

後春上友則 家

[illegible]

古憲二宗岳大頼 第五重出

[illegible]

[illegible]

後冬[illegible]寛 新万

[illegible]

[illegible]

契沖云あの面[illegible]

古憲三[illegible]後冬[illegible]家

[illegible]

[illegible]

後冬[illegible]寛 新万

[illegible]

貫之集

[illegible]

火

詞憲上[illegible]寛 新万 新勅憲二

[illegible]

[illegible]

和名抄燈火類云唐韵云熾漢語抄云於賊比猛火也云云

古今すみけー　小町

[illegible]

契沖云かびハ万葉ニ蚊火ト書テいまのふ蚊遣火なり

万三門部王　夫雜ヒ浦[illegible]

[illegible]

寛 新万

[illegible]

詞憲上大中臣能宣

[illegible]

古憲一[illegible]新撰[illegible]

[illegible]

万十 新古憲一九 家

[illegible]

同十九家持

[illegible]

新勅憲一[illegible]摂津

[illegible]

後離別 貫之 家

[illegible]

同憲一伊勢 家

[illegible]

[illegible]枕と衾を物名ふまるなる

[illegible]

後撰[illegible]云みちの[illegible]

[illegible]

[illegible]

とるすゑ八雲御抄盛衰記ホ
ゼ

けぶり

古憲四まさ人ぶ伊第三重出
いせの海士の塩焼けぶり風をいたみ思ひぬるかな柳ゝ
もれ古伊
拾憲一貫之 續古憲二まさ人ぶ
いつくとてもとぶらひぎくん
貫之集
やま拾イ
もの拾イ續
あさぶの山の煙てん
西イ拾
たけ拾
の拾續
土ゆたゝ煙ぞたちて大空の雲ぬ様にぞ思ふべきまし
古詠詠紀乳母
不士の雪ぬ思ひよもえ消ぬ空ゝ煙ぞ
もと古
後憲三同人
うれぬ消をもとゝ
ふしのねぬもえたゝるとも後
が後
貫之集
たゝるの山ぬ松の煙ぞ
伊勢集
たてはあるふじのひもなりぬるなるきの煙ぞ
ゆの集
同
袖めぬてあまのたく火はもえねどやゝと煙の立はぐるらん
ガモ 新古雜中まさ人ぶ 夫雜七海まさ人ぶ
たてものの浦の塩やく煙風をいたみ立のぼりぬ
海まさ人ぶ
煙風をいたみ立のぼりぬ
新 万

古今長歌

たゞこと

ちりつけとやちりのなほ云ゝ

万葉十五 中臣宅守
知里比治能可受爾母安良奴和礼
由恵爾於毛比和夫良牟伊母我可
奈恵佐
知度論第九十四云積微塵成山難
可得移動
古今序云ちきゝもふるものちり
ひぢよりあつてあまやゝたるぶひく
までおひのぼるごとくに云ゝ」
椎園翁云神代紀ゝ蹴散を云ゝ
かとゝ訓て万葉廿ホあま小ふとらゝに
うきてゝ浮もゝかちりあつまりて源氏
玉ゝ荷葉の方を合せゝ名香ゝ
うゝ
散ふゝ
ようゝ
られゝ
古今戀四

なりひら朝臣

かつゝよおもひおもひぶるひぐゝ
ゆをしる面ハふりそまきる

古雜ゝ新撰
月の上はありきぶめぬちりの身ハやゝ
カイ
たきゝもるちりは数ふも思ぬをうづまるゝあやゝ
ヒイ
古憲三伊勢家
ちりといつぐ松ぐよもぐ
ゆたもの、庭のちりとまぐふんひゝあゝ挿さざるみん
万三人危 夫雜雲ゝ
大ふふ神ゝ
あと夫
みぐちぐ
の方
山ヨイ
尾
ゆゝり夫
古憲四ゝ
てのまゝ原ふゝ
同十九
てゝをゝよふゝ
古憲四ゝ
原ふゝ
後憲六
ふゝ
ゆる神も思ふ井をぶさるものうゝ
ぬどぶ井のゝやるゝるふゝなるものまゝる
ともゝ後
ての原ゝ神いるおもふん
ゆをしる面ハふりそまきる

ふるめしてふれば　あるべしあまつ空　雲も吹　空よ形う形う
万二　拾遺一人九　家
てしもの　へまこやぐくれ　浦の神の　まるよ　ぬ　ぬ　ぬ

あまとなれど法てらにいりてのちはあらぬ
ものとなりぬるかなしさよ